

# 次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ⑮

## 優れたブドウ農家になるために

私の夢は、優れたブドウ農家になり美味しいブドウを生産することです。

そのために現在栃木県農業大学校の果樹専攻で日々ブドウについて学んでいます。

私の家は、昔から代々農家として稲作を行っていましたが、減反政策や米の価格低下から父が胡蝶蘭の栽培を始めました。しかし私は、家を継ぎ農家になると決心したときに、父の始めた胡蝶蘭を単に継ぐのではなく、自分のやりたいことを仕事に出来

たら魅力的ではないかと考えるようになりました。

家が農家という漠然とした理由で農業高校へ進学しましたが、授業の一つにあった果樹の実習をしているときに、初めてブドウに触れブドウの面白さを知り、その時に「これを仕事にしたい」「将来はブドウ農家になる」という明確な目標が出来ました。

いま学校ではブドウの中でも主に「シャインマスカット」の勉強に力を入れており、



剪定から誘引・房づくり・薬剤散布にいたるまでブドウを生産するための一連の作業を実習で行っています。私は現在シャインマスカットの短梢剪定並行整枝栽培を卒論として取り組んでおり、将来、経営に導入した時に、より高品質なブドウを生産するために研究しています。

親とは違う作物を一から始めるのは大変なことですが、優れたブドウ農家になるという夢を叶えるために、今後もブドウの知識を高め、立派な経営者になれるよう努力していこうと思います。

(園芸経営学科 果樹専攻 小林祐輝)



# 祖父との約束、そして花づくりで皆に恩返し



私の夢は、花づくりを通して今まで私に関わってくださった地域の方や先生、友達、家族に恩返しすることです。

我が家では、私が生まれる前からシクラメンを中心とした鉢物栽培を行っており、物心がついた頃から花に囲まれて育ちました。私が本格的に花づくりを一生の仕事に

なりました。

「私も将来、花づくりが生きがいだという底から言えるような、そんな花の生産者になりたい。」その想いを胸に、現在農

しようと決心したのは、私が中学三年生の時に他界した、花づくりが生きがいだった祖父と交わした約束があったからです。

私は今でも祖父が最後に話してくれた言葉を覚えています。話すのも大変な状況で発した「花屋よろしくね」という言葉です。花を愛し、一生をかけて築き上げてきた鉢物経営を孫の私に託す、そんな思いから絞り出された言葉でした。これは祖父と私との『約束』に

業大学校で花き栽培に関する知識や管理技術を学んでいます。

就農することは簡単なことではありません。どんなことがあってもあきらめずに花づくりを続けていきたいと思っています。家族応援してくださる方のため、そして何より祖父との約束を果たすためにも花を作り続けて恩返しをしていきたいと思っています。

(園芸経営学科 花き専攻 菱沼由希)

